

やしろしょうがっこうきゅうほんかん
「屋代小学校旧本館」

- 指 定 千曲市指定有形文化財（建造物） 昭和 48 年 3 月 15 日
- 所 在 地 千曲市市大字屋代 2, 111 番地 屋代小学校敷地内
- 所 有 者 千曲市
- 概 要 擬洋風学校建築 木造 2 階建 延 175 坪 (577.5 m²)
- 建築年代 明治 21 年 (1888 年)
- 公 開 内部は非公開

長野県は、明治 5 年 (1872) に小学校の制度ができてから、全国一の就学率（学校に通う子供の割合）を誇っていました。明治の前半においては、日本で一番教育熱心な地方で、県内のどの地域においても新しい学校の建設がさかんに行われ、この屋代小学校旧本館の校舎もその一つです。

校舎の姿は洋風になっていますが、当時、洋風というのは新しいことやより進んだことを意味していました。そこで、より進んだ新しい学校を造ろうという屋代地区の人々は、お金や材料を出したり、大工の下で工事の手伝いをしたりして、立派な校舎になるように力を合わせ、当時としては大変珍しい洋風の校舎を建てました。

全体を四角の箱型に造り、正面に大きな車寄せ^{くるまよ}を張り出している構えは、典型的な明治の小学校の造り方です。壁は板を重ねて張り、ペンキを塗っています。こうした板を^{したみいた}「下見板」といい、アメリカの開拓者たちが発達させた造り方です。

明治初期に、大工の棟梁たちが様々な地方に出かけては洋風の学校を見学し、見よう見真似で作った洋風建築のことを「擬洋風建築^{ぎようふうけんちく}」といいます。明治の文明開化の時代を象徴する重要なものです。

